## そ の 90

ある。天龍峡在住の 集められたものだけ 親子二代にわたって 州地域資料センター 今村節子氏から南信 れた文化人である。 研究・保護に尽くさ 著書も多く、同地の は、天龍峡に関する 量の寄贈があった。 **直父子の蔵書等、大** 、故今村良夫・眞 へも知る今村父子 昨年五月のことで うことになり、川路 ことがよかろうとい ある数枚の写真につ も含まれていた。私 はその内から、興味 のアルバムや写真類 路や天龍峡に関する なものが多かった。 いて調べてみた。 公民館に保存してい ただくことになっ 資料は、郷土に残す た。 その中に、 多く それらの中で、川

う婦人も共に和服で る。昭和初期だけ ある。案内している 立つ不折も、寄り添 に、帽子をかぶって 不折夫妻の写真であ 付近を散策する中村 ら洋画を学んだ。さ として名高い。初め 南画を習い、後に上 三) は、画家・書家 京して小山正太郎か •一八六六~一九四

中村不折の天龍峡来遊 枚の写真から 1

倉 貞 男

勝地天龍峡の仙牀盤 最初の一枚は、景 ある。バックには、 閣」の主人原貞造で のは、当時天龍峡に 大正七年から昭和四 あった旅宿「仙峡 た先代の「姑射橋」 六年まで利用され 活躍した。また、六 後は太平洋画会等で た。当地では、上京 道博物館を創設し ンスに師事し、帰国 らに渡仏してローラ 以前、飯田小学校で 朝書道を研究し、書

化を考える上で貴重

に、地域の歴史や文

中村不折(鈼太郎 に七十一歳の不折 泊したのは、昭和十 一年五月である。時 を訪れ、仙峡閣に来 とで知られている。 菱田春草を教えたこ その不折が天龍峡 と結婚した。 郎の二女である彼女 酌により、埼玉県大 明治二十九年十月、 里郡三尻村の堀場一 小山正太郎夫妻の媒 『中村不折

開館させた。 同年十一月には、既 ど、画や書の大家と 道博物館」を正式に は、前年に帝国美術 に竣工していた「書 して著名であった。 阮会員に推されるな 従兄、及び小山の強 年刊)によれば、当 結婚は、いとの兄や 務していた彼女との 講談社·昭和四十八 い薦めがあったよう △芸蹟』(中原光著・ 立教女学校に勤

人である。不折は、 に立つのは、いと夫 なり長く逗留したら だが、天龍峡ではか しい。下の写真中央 正確な日時は不明 を表している。 長女まさ(夭逝) も二人の結婚に祝意 交のあった正岡子規 だ。さらに、当時親 その後、いとは、

男亥三郎 (夭逝) を

午郎・二男摠六・三

産み育てたり、舅源

て、最後までその世

(は結婚から四十年 天龍峡来遊時、二

(故人敬称略)

造や姑リウと同居し

三女みね尾・長男丙 二女とし(夭逝)・



功よろしく、夫の働まり、いとは内助の きを内から支えたよ うに思われる。 話をしたりした。つ

右から中村不折、いと夫人、原貞造 れない。<br />
なぜなら、<br />
を与えたかも知 折夫妻にとって、日た。この来泊は、不 いに龍角峰が見えるを迎えていた。向か がする。 ところがあるように の描く山水画に通う 常の慌ただしさから 思うからである。 天龍峡の景観は、彼 解放されて心休まる 不折の画境に多少の に応じて快く揮毫し た不折は、原の求め 「錦の間」に逗留し 時だったような気 また、この来峡は、